

平成 17 年 12 月 26 日

水素ステーション事故後の原因究明の経過

九州大学水素ステーション

九州大学伊都キャンパスにおいて 12 月 7 日に発生した事故について、その原因究明と対策を検討すべく、事故調査体制をほぼ固めました。九州大学の教員及び水素ステーションの研究プロジェクトに参加・関係している機関の人間で構成する「内部調査委員会」と、中立な立場である公的機関の方をお願いして組織する「外部評価委員会」です。内部調査と外部評価の連携により、中立性を保って調査を進めていきます。

内部調査委員会は、メンバーを下記のようにほぼ確定しました。括弧内は専門分野をあらわします。

また、*印は地域新生コンソーシアム研究開発事業の共同研究者であることを示します。

九州大学大学院工学研究院教員 14 名（うち 5 名が*）

（材料強度学，事故解析，安全工学，燃焼，熱工学，熱流体工学，電気化学，制御工学，システム数理工学，機械要素など）

九州電力(株) 3 名*

（新エネルギー）

三菱商事(株) 2 名*

（H H E G 開発者）

(株)キューキ 2 名*

（電気機器，高圧ガス保安技術）

福岡県産業・科学技術振興財団 1 名*

日曹エンジニアリング(株) 2 名

（H H E G の設計と制御）

このほかオブザーバーとして下記の 2 名が参加

大陽日酸(株) 1 名

（ガス全般）

日立造船(株) 1 名

（電解セル開発）

内部調査委員会では鋭意調査を進めており、12 月 8 日、12 月 12 日、12 月 16 日、12 月 22 日の 4 回会議を開き、委員間の情報交換と討議を行いました。未だ事故原因の中間報告ができる段階には至っておりません。

H H E G 装置内の圧力上昇の原因と酸素配管破裂にいたるまでの過程を明らかにすべく、現場の調査、装置の記録データの分析、理論計算などを行っています。現場の調査としては、12 月 12

日に工業保安課から現場保存の指示が解除された後より，破損物の調査，残留物の分析などを始めており，部品ひとつひとつを入念に調べることを行っています。事故時には，装置の安全停止機能が作動したため，装置の一部に高圧水素ガスが密封され，また事故時に放出した汚水の一部が装置内に残留しております。水素ガスについては，21日にH H E Gからの放出を行いました。また隣接する蓄圧器内の水素も26日に安全に放出いたしました。これらの作業については工学部と関係当局（県工業保安課、消防署など）と連絡をとりあって安全を期して進めております。

なお，12月19日に福岡県商工部工業保安課に事故報告書（中間報告）を提出しております。

外部評価委員会のメンバーについては現在調整中です。確定次第，発表させていただく予定です。